



第10回佛教大学ホームカミングデー2019

佛教大学ホームカミングデー特別企画

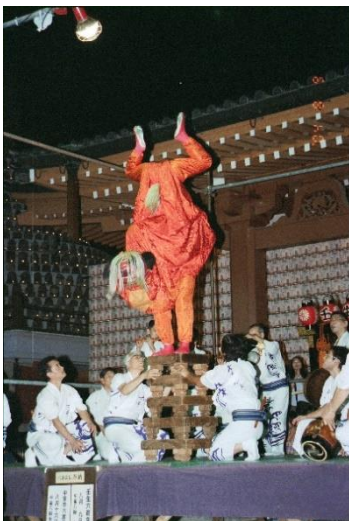
国指定重要無形民俗文化財

演舞 壬生六斎念仏踊り



平安時代に空也上人が、民衆に信仰を広めるために始めたのが起こりとされています。「京都の六斎念仏」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。

開催日時：令和元年11月2日（土） 16時30分より17時
会場：礼拝堂（水谷幸正記念館）前
演者：壬生六斎念仏講中の皆さま



壬生六斎念仏

現在の京都の大半の六斎念仏は、芸能的要素を取り入れたいわゆる「芸能六斎」である。芸能六斎の特色は、伊勢の太神楽（獅子舞）や曲芸技を六斎念仏に取り入れたことである。流行芸を取り入れた典型例は、祇園囃子の六斎念仏化である。祇園囃子の代表的な芸能は「棒振り」である。これは元々壬生六斎の工夫によるもので、18世紀から祇園祭綾傘鉾に奉仕していた壬生六斎念仏講中が棒振りを学び、その芸態を六斎念仏の中に取り入れたのである。さらに、壬生六斎念仏講中が工夫して普及したもう一つの芸態が「土蜘蛛」である。

綾傘鉾棒振り囃子



綾傘鉾の前で演じられる「棒振り囃子」は、江戸時代以降、京都の壬生の人々が奉納するようになった民俗芸能で、今日では壬生六斎念仏保存会の人たちによって演じられている。今日の棒振り囃子に用いられる棒は、長さ5尺弱ほどで、両端に1尺ほどの房を付けたものである。棒を激しく振ることで、周囲のさまざまなケガレや災厄を祓う目的があると考えられる。また太鼓方は二人で一つの締太鼓を、一人が手に持って受け、もう一人がそれを打って踊りながら囃す。

解説：歴史学部教授 八木透